



『みんなで守る「宝の海」』

明倫小学校 六年 三谷 愛結

私の故郷、佐賀県鹿島市には、日本一の干満差を誇る有明海が広がっています。潮が引くと現れる干潟は、むつごろうやシオマネキなどの珍しい生き物たちの家です。私達に美味しいのりや魚などの恵みを届けてくれる、まさに「宝の海」です。私は、この干潟こそが世界に誇れる鹿島の宝物だと思っています。

しかし、最近少し不安に思うことがあります。昔に比べて漁獲量が減ったり、のりの不作が続いていたりすることをよく耳にするようになったことです。私の大好きな鹿島の美味しいのりが、いつか食べられなくなってしまうのではないか、若い漁師さんが減ってしまいこの豊かな漁業の文化が途切れてしまうのではないか、干潟の環境が変わることで、私達の食卓や町の活気まで失われてしまわないか。私は今、とても心配しています。

そこで、私が考えたわくわくする解決案があります。それは、「干潟ブランド化」プロジェクトです。これは、ただ美味しいのりや魚を売るだけではなく、海の環境を守る活動をセットにしたアイデアです。まず、鹿島の海産物を「ガタ印」という特別なブランドとして売り出します。その売り上げの一部を使って、海に栄養を運ぶ仕組みを作ったり、AIを搭載した「環境見守りセンサー」を海に設置したりします。この環境見守りセンサーがあれば、水温の変化や栄養状態などをいつでもチェックできます。つまり、鹿島の美味しい海産物を食べるだけで、世界中の人が干潟を守る仲間になれるのです。鹿島の海産物が「世界一干潟に優しいブランド」として有名になれば、漁師さんを目指す若者が増え、仕事が安定し、鹿島市はもっと活気あふれる街になるはずです。

この未来を実現するために、今の私達小学生にもできることがあります。それは、鹿島の海産物の美味しさや干潟の大切さを、もっと周りの人に伝えていくことです。また、地域の清掃活動に参加して、自分の手でごみを拾いながら、今よりもっと干潟の生き物が暮らしやすい環境になっていくのを肌で感じていきたいです。

鹿島の干潟は、長い時間をかけて自然がつくってくれた奇跡のような場所です。宝の海を守るために、今を生きる私達が知恵を出し合いましょう。有明海特有の生き物が暮らしやすく、美味しいのりをいつまでも食べ続けられる未来を。私の手で、みんなの手で守っていきたいです。